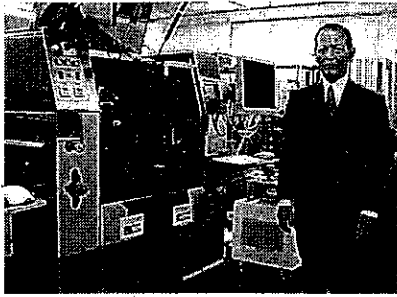


こだわり 知財戦略

小型・軽量化が加速する電化製品。そのカギを握るのが半導体のサイズだ。スクリーン印刷機メーカーのミナミ（東京都府中市、年商約27億円）は独自の印刷技術を確立することで半導体の小型化の一端を担っている。国内シェアは約3割を握り、業界では大手も一目置く存在になった。100に上る特許を駆使する同社の知的財産戦略を村上武彦

ミナミ スクリーン印刷機製造

村上 武彦社長



特許技術を担保に融資を受けたこともある

特許で大手対抗、担保化も

0程度になる。競合他社には大手も「業界の常識にとらわれ活用するのかわり」多く、我々の規模で勝ち残るには中核技術を開発して「守っている中核技術をテコに新製品開発につなげていきたい。LED（発光ダイオード）分野では特許技術で守るしかない」

「私が社長になった当時、気圧を均一に高め（機械内部の）特許はゼロ。業界のことはるために）エアバ何も分からず、大学の研究ツグを使う我が社室に通いつめて勉強するの独自の機構は印刷かなかった。実はエアバックを使う仕組みは建設業界に高める。大手はのノウハウを応用している」

「かつて特許技術を担保に日本政策投資銀行から5000万円の融資を受けたことがある。知的財産は守りのためだけに使うのではなく、ときには機動的に活用することで会社の成長、発展につなげられると考えている」

彦社長（66）に聞いた。

「大量の特許を保有し、この手法をとれず、品質面で大きな差が出る」

「出願中も含めれば30本姿勢は、特許取得に対する基

「出願中も含めれば30本姿勢は、

「知的財産を今後どう

（聞き手は中谷庄吾）